

中国国家教育部哲学社会科学重大プロジェクト 12JZD014
中国国家社会科学基金プロジェクト 12BYY138

中日韓三ヶ国言語の漢字源語
比較研究の課題について
北京外国語大学 施建軍

中国、日本、韓国など三ヶ国は長い文化交流の歴史を持っている。三ヶ国の言語に使われている漢字源語はこの文化交流歴史の足跡でもあれば、三ヶ国の共の富にもなっている。というのは、三ヶ国の文化交流の流れは三ヶ国の言語にある漢字語から伺うことができるからである。周知のように、古代には、三ヶ国の間の文化交流は主として中国から日本、韓国へと影響が及ぼされる一方だったが、近代になって、中国は日本から先進文化を受けるとともに日本で創出された漢字語も受容するようになった。現代になって、中日韓三ヶ国の間では、お互いに他の二ヶ国から影響を受けるという状況になった。このような文化交流のブームにおいては漢字語は非常に重要な役割を果たしている。例えば、日本語の分からない中国の子供たちが言語的な抵抗なしに日本語の漫画やアニメーションを楽しめるのは日本語に漢字語があるからである。

漢字語の研究はずいぶん昔から既に始まり、研究成果がたくさんあげられている。韓国の学者李漢燮が中日韓三ヶ国のいままでの漢字語に関する研究成果を調査し、『近代漢語研究文献目録』を出版した。『目録』によって、漢字語に関する研究成果が 4000 件にも登った。しかし、これほど研究成果を収めたにもかかわらず、この分野の研究は極められたわけではない。それどころか、漢字語はいったいどのような単語の群れなのかというようなまるで足元にある問題もまだ解決が着いていない。それでは中日韓三ヶ国の言語にあるこのような単語を研究するに当たってどのような研究課題があるのか。

まず第一、このような単語はいったいどのような特徴を持っているのか。つまり、このような単語の定義である。中国語には文字表記として漢字

しかないが、日本語や韓国語には漢字のほかに文字としては複数の表記種類がある。同じ単語ではあるが漢字で書き記すこともできれば、仮名やハングルで書き記すこともできる。特に韓国語の場合はあまり漢字で書き記されていない。このような事情で、中日韓など三ヶ国の言語にある共通的な語彙はあるのか、またもしあれば、これらの単語をどういう風に名づけたらいいのかという問題さえ、学界ではよく話題に持ちかけられている。ここでは、漢字で書き記す単語と区別して漢字源語と呼びたい。つまり、日本語或は韓国語にもともと仮名或はハングルで表記したのではなくて、漢字でしか表記しない語彙のことである。例えば、「学生、先生、幹部」などのようなものである。日本語の「川（かわ）、山（やま）、走る（はしる）」などのようなものは漢字で表記する場合があるにもかかわらず、もともと和語であるから、漢字源語と認めない。

それから、中日韓三ヶ国の言語にある漢字源語には三ヶ国にわたって通用のものがどれくらいあるのか、またどのようなものがあるのか。特に中日韓三ヶ国の現代言語生活に使用されている共通漢字源語はどれくらいあるのか、これにはどのようなものがあるのか。どういう風に調査するのか。中国語と日本語は文字表記として漢字を使っているが、しかし、韓国語には漢字はあまり使っていない。だから、どういう風にコーパスから現代韓国語に使われている漢字源語の使用実態を調査するかは難しい課題である。また、中国語にも日本語にも漢字を文字表記として使っているといても、漢字の字形は中国と日本で相違のあるものがたくさんある。そして、同じ字形を持っている漢字であってもコンピュータのエンコードが違う。また、韓国の国家基準では韓国語用漢字の字形は中国語とも日本語とも違うものもたくさんある。だから、どのような手法で中日韓の共通語を調べるかは研究課題の一つになる。

第三の課題は同じ漢字源語の中日韓三ヶ国の言語における意味用法の相違を巡る研究である。これについては、従来、一つの単語を巡って三ヶ国の言語における意味用法相違の分析を主とした個別研究が多いが、こういった単語の

意味用法を対照する普遍的な研究方法がないか、もしあればどのような方法があるのか。つまり、三ヶ国の共通漢字源語を対照する方法論的な研究がまだ不十分である。この分野においてはかなり研究の余地がある。特に外国語として中国語、日本語、韓国語を教える場合、これは非常に価値のある研究課題である。

以上のように、中日韓三ヶ国言語の漢字源語を巡って三つの方面から研究課題を提示したが、この三つの方面の課題を研究するにはまた多数の問題がある。とにかく、中日韓漢字源語比較研究の分野は中日韓三ヶ国言語の対照研究の富鉱である。